



「やさしい日本語」で外国人母子に寄り添う

ピナット～外国人支援ともだちネット コーディネータ 出口 雅子

ピナット～外国人支援ともだちネットの概要

ピナット～外国人支援ともだちネット（以下「ピナット」）は、東京都三鷹市にある保育園を拠点に活動している任意団体です。三鷹市は外国人住民の割合が人口の約2%ですが、国籍は多様で外国人同士のつながりは弱く、外国人女性が孤立しがちな地域です。ピナットは、彼女たちが安心して子育てができるよう日本語教室や、生活や子育ての相談ができる場をつくってきました。

ピナットの前身は、1991年のフィリピン・ピナツボ火山の大噴火を機に発足した「ピナツボ復興むさしのネット」です。その活動の中で、地域に暮らす外国人たちと出会い、1995年に保育園の一角で日本語教室を始めました。そこでさまざまな相談にのる中で、子どもの日本語や学習に関する相談が増え、2005年に「子ども学習支援教室」を開講。さらに、日本語も母語も十分に習得できない「ダブル・リミテッド」の問題を知り、子どもの日本語習得には実は親の母語での子育てが鍵だと学んだことから、2012年に乳幼児がいる外国人ママたちの交流会を始めました。外国人ママたちから寄せられ



国際ママ交流会で小学校の入学準備や学用品について紹介

る相談の中には、親子広場の利用登録や学用品の買いものなど、誰かが同行することで解決することも多くあります。そこで、2016年から、個々のニーズにきめ細かく対応する「寄り添い同行支援」も始めました。

紙芝居で支援者を増やす

ピナットの活動が知られるようになると、民生委員やPTAの方などから「気になる外国人母子がいるんだけど、ピナットを紹介してもいいですか？」と相談されることが増えました。嬉しいことですが、ピナットの限られた人員だけでは応えきれず、どうやって支援者を増やすかが課題となりました。

ピナットが関わる外国人ママは、日本語会話はある程度できるが読み書きは困難という人が多いため、同行支援はその人の日本語力に合わせて「やさしい日本語」で対応しています。内容も子どもに関することが中心です。つまり、専門知識や外国語能力がなくても、子育て経験のある人であれば支援できることがたくさんあります。また、外国人ママたちにとっても、近所で相談できる人がいた方が安心だと思います。

そこで、気になりながら関わり方が分からないと感じ



コロナ前の日本語教室でのパーティー



ピナットオリジナル紙芝居「となりのママは外国人!?!」
ピナットのウェブサイトで動画を公開しています。
<https://pinatmitaka.wixsite.com/pinat>

ている方に、関わり方のヒントを伝えようと、紙芝居をつくることにしました。ストーリーづくりのワークショップから何度かの試作を経て、2018年、「となりのママは外国人!?!」と題する14場面の紙芝居が完成しました。主人公の鈴木さんはひよんなことからマリアさんと出会います。知り合いの李さんの助言も得て、「やさしい日本語」を通じた二人の素敵な交流が始まる、という物語です。

この紙芝居は、子育て団体の集まりやNPO関係のイベント、民生委員や学童保育職員の研修会などで上演してきました。みんなで紙芝居を見た後、「やさしい日本語」の会話練習をしたり、ピナットが出会った外国人ママたちのことを話したりしています。また、ピナットのウェブサイトで動画を公開し、どなたでもご覧になれるようにしています。2020年には「ステイホーム」企画として感想文コンテストを実施しました。授業がオンライン化した大学の先生方が学生たちに呼びかけてくださり、45作品の応募がありました。

他機関との顔の見える関係づくり

外国人ママたちからの依頼で、親子ひろばや、学校、学童保育などに同行したり、代理で連絡することが増え、それぞれの職員や教員と顔が見える関係ができてきました。国際ママ交流会に、市の子ども発達支援課や防災課から講師を派遣してもらったり、民生委員や学童保育職員の勉強会に講師を依頼されることもあります。「こういう外国人母子がいて心配」と相談を受けるとピナットが持っている多言語情報を提供したり、逆に「こういう



国際交流まつりで紙芝居上演

新しい制度が始まるからピナットの皆さんに伝えてね」と情報をいただくこともあります。

ピナットは小さな任意団体なので、組織同士の連携関係というのはむずかしい面もありますが、日ごろから連絡をとりあい、話しやすい関係を築いておくことが大事だと思っています。

「やさしい日本語」を使って外国人母子に寄り添う人（市民も行政も含めて）を少しでも増やし、誰もが安心して暮せる地域にしていきたいと願っています。



学童保育職員とピナット・スタッフの意見交換会



保育園でピナット絵本まつりを開催。外国人ママたちが自分たちの母語で絵本を読みました。